

■上田寅吉 プチャーチンの艦船が安政大地震で沈没、ロシア人の指導でヘダ号を完成、明治維新後、造船業の基礎を築いた。
うえだ とらきち
シゴト 来日・1823＝ 伊豆国君沢郡戸田村大中島で、船大工の家に生まれる。

鼠小僧磔・・1832＝ 9歳：

大塩平八郎乱1837＝14歳：

天保改革始・1841＝18歳：

阿部正弘首座1845＝22歳：

国定忠治磔・1850＝27歳：

ペリー来航・1853＝30歳：
開国開港・・1854＝31歳： *ロシア使節プチャーチンが来航、下田での日露和親条約の第1回交渉翌日に安政大地震が発生、大津波のため、寄港していたディアナ号が座礁し損傷、修理のため、戸田港を目指して駿河湾を北上するも嵐に襲われ沈没。プチャーチンから、帰国のための代艦建造を請願された幕府は韭山代官の江川英龍を建造取締に任命、ロシア人による洋式外洋船の建造技術を学ぼうとした、川路聖謨とその上司の老中の阿部正弘によって、7人の船大工棟梁の1人に選ばれる。 図面等の諸資料もなく、日露両国人の意思疎通もままならない中、見識のあるロシアの乗組員から指導を受けつつ、手探り状態で日本初の本格的洋式帆船の建造を開始し、87トン、50人乗り2本マスト状の帆船_戸田(ヘダ)号が進水。幕府はヘダ号の優秀性に注目、同型船を追加建造を決定。そのうち6隻を、戸田の寅吉ら7人の造船世話係で進め、幕府旗本鈴木七助に従うことで、長崎海軍伝習所に入ることを許され、オランダ人教師から造船術を学ぶことになり、残り5人が中心となり一挙に約6ヵ月で6隻を完成させ、江川代官に引き渡された。

安政大地震・1855＝32歳： 87トン、50人乗り2本マスト状の帆船_戸田(ヘダ)号が進水。幕府はヘダ号の優秀性に注目、同型船を追加建造を決定。そのうち6隻を、戸田の寅吉ら7人の造船世話係で進め、幕府旗本鈴木七助に従うことで、長崎海軍伝習所に入ることを許され、オランダ人教師から造船術を学ぶことになり、残り5人が中心となり一挙に約6ヵ月で6隻を完成させ、江川代官に引き渡された。

松下村塾・・1856＝33歳：

安政の大獄・1859＝36歳：
桜田門外変・1860＝37歳：
生麦事件・・1862＝39歳： 蒸気船機械製作を伝習しようとする幕府の命で、軍艦技術に長けた幕臣榎本武揚、沢太郎佐衛門らに従ってオランダに留学、幕府がオランダに発注した{開陽丸}船匠長として、造船に従事、榎本らとともに、竣工した{開陽丸}を回航して帰国。

大政奉還・・1867＝44歳：
明治維新・・1868＝45歳： 積載してきた鉄製浚渫船2隻を、石川島造船所で組み立てるが、戊辰戦争となり、幕府軍に加わって、戊辰戦争終・1869＝46歳：榎本の下で箱館戦争を戦い降伏。明治政府による拘留を経て、初の日刊新聞1870＝47歳：釈放されるとともに、*横須賀造船所(のちの海軍工廠)創設にあわせて、造船技術者として起用され、廃藩置県・・1871＝48歳：フランス人のもとで勤務するうち、造船中手、製図工場職頭になり、幕府の横須賀製鉄所を引き継いで、新政府が横須賀造船所(のちの海軍工廠)創設するとともに、初代所長に就任。

明治6年政変1873＝50歳：
三つの内乱・1876＝53歳： この頃、赤松則良の設計で建造された軍艦四隻(清輝・天城・海門・天竜)の製図を引き、以後、日本の西洋式船艦の造船は、日本人技術者だけに次々と成し遂げられていくようになる。

西南戦争・・1877＝54歳：
大久保暗殺・1878＝55歳： 軍艦磐城の進水式に際し、横浜で発行されていた英字新聞{ジャパングゼット}の記事には、'磐城はその造営、進水全て日本人によってなされ、船体構造は一等工夫上田寅吉の技芸をもってなされた'と書かれた。

明治14年政変1881＝58歳：

秩父事件・・1884＝61歳：長崎の三菱造船所はじめ、日本の主な造船所設立にも携わり、

帝国大学始・1886＝63歳：船渠工場長、次いで端舟工場長となり、広く名を知られるようになり、赤松とともに近代日本の造船技術と海軍の基礎固めに大きく貢献したことから、"日本造船の父"とも呼ばれるようになる。後に、日露戦争の日本海海戦でロシア・バルチック艦隊を破った日本艦隊のうち4隻の設計も担当し、高等官技師にまでなったが、高齢のため退職し、

帝国憲法発布1889＝66歳：
帝国議会始・1890＝67歳： 没した。